



しずおか愛護

No.41 (令和3年3月19日発行)

静岡県知的障害者福祉協会・広報 発行



=巻頭言=

月日の経つのは早いもので、ついこのあいだ新しい年を迎えたと
思ったらもう春分。まだまだ花冷えを感じる時もありますが、日の
出日の入りの時間を考えると、本格的な春の訪れもすぐそこに来て
いるだろうと感じております。

新型コロナウイルスの感染状況に注視しながらの生活。2月に2度
目の緊急事態宣言が発令され、変異株による新たな感染拡大も心配
されるではありますが、そのような中でワクチン接種が順に
始まり期待を寄せているところです。

外出自粛が叫ばれる中、どのように過ごしているかと申しますと、
ひたすら山歩きをしております。出会う人出会う人とあいさつを交わ
し、ときに咲いている花を教わってみたり、道情報など交換をしているとネットワークとはこのように
してつくられていくものなんだろうなあと、若いころ「ケースワークはネットワークづくりから」と自
らを鼓舞していた時期を思い返します。そうは言ってもそこは自然の中、動物の鳴き声やイノシシとの
にらめっこなどに遭遇すると心拍数も上がりハラハラドキドキすることも度々あります。

このような中、長年愛用してきた折りたたみ携帯の調子もよろしくなく、いよいよ憧れの iPhone、
AppleWatch に変えてみました。子供のころ腕時計のようなものに話しかけると流星号^(注1) がやってく
る装置に憧れたものですが、今自分の手元の腕時計に話すと人と話せることの不思議さに驚きます。ま
たヘッドホン型のマイクを着けてオンライン会議に参加していると、CCB^(注2) がつけて歌っていた時代
を懐かしく思い、モニターに映る自分の姿を見てはニヤケてみたりもしています。さすがに髪をピンク
にすることはありませんが…。

この時間の流れの中で大きな時代の変化を感じております。今だから変われること、変わることもあ
るのではと、少しずつではありますが取り組みを始めました。

そうは言ってもそろそろ皆さんとも顔を合わせての対面を恋しく感じています。ネットワークづくり
をする上では、やはり時と場を同じくすることの重要性も忘れていませんし、近い日に実現することを
期待しております。

最後に感染の不安と闘いながら日々仕事をされている職員の皆様に敬意を表し、巻頭のあいさつに代
えさせていただきます。

注1： 1965年に放映されたアニメスーパージェッターに登場するエアカー型のハイチタン合金製タイムマシン。

注2： 1980年代に活躍したロックバンド。代表曲「Romanticが止まらない」。



静岡県知的障害者福祉協会
副会長 家込久志 (ほっと)

令和2年度

第29回愛護ギャラリー展について

第29回愛護ギャラリー展実行委員長
文化担当理事 中村文久
(障害者就業・生活支援センターさつき)

今年度の愛護ギャラリー展は異例づくめの開催となりました。もともとグランシップが使用できないので沼津での開催を予定していたところにコロナウイルスの影響が重なり、果たして行うことができるのか危惧していました。12月という開催時期は感染症拡大の恐れが最も大きい時で本当にどうしようかと思っていました。WEBでの開催はこうした状況から考え着いた方法でありました。

WEB開催はもちろん初めての経験であり、まさに手探りの中で準備を進めていきましたが、実行委員はじめ会員の皆様のご協力をいただき無事開催できましたことを遅ればせながらこの誌上をもってお礼申し上げます。

WEB開催は、全世界の人たちに作品を見ていただける機会を提供できる利点があります。実際にアメリカ、カナダ、イタリア、オランダ、マレーシア、中国の6か国からアクセスがありました。また絵画の部の金賞作品には「購入したい」とのオファーがありました。従来のギャラリー展では考えられないことでこれもWEB開催ならではのことでした。ちなみにアクセス数は584でした。

今回はやむを得ずWEBでの開催としましたがその利点もわかりましたので次回以降は通常の展示と並行してみたらどうかと思います。



引き続き公開中です。

<https://shizuoka-aigoexhibition.com/>

どうぞご覧ください。

金賞受賞作品（県知的障害者福祉協会会長賞）

絵画の部



大好き花鳥園

県知的障害児者サポート協会
安田幸大

陶芸の部

刷毛目紋 三点揃い

ルーチェ仰陽
明光会陶芸クラブ



工芸の部



ジンベエザメ

富岳学園
富岳学園うさぎ組合同作品

令和2年度施設長等研修会

事務局 青野剛明

例年、施設長等研修会は1泊2日の日程で、講演、分科会、そして夜は懇親会で昼とは異なった雰囲気の中で情報交換に花が咲いていましたが、ここにも新型コロナは重く影を落としました。今年度は、半日の日程として、この研修会の歴史上初のオンラインで開催しました。事務局もまだまだオンライン開催に慣れないことも多く、参加者が100人を超えたため、参加が制限された時間帯もあり、一部の参加者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしてしまい、改めてお詫び申し上げます。

今年度はオンライン開催ということもあり、例年に比べ大幅に内容を圧縮しての開催となりました。まず、池谷会長の挨拶の後、(公益財団法人)日本知的障害者福祉協会の末吉事務局長から、令和3年度障害福祉サービス等報酬改定を中心にした中央情勢報告をしていただきました。報酬改定については、会員の皆様にとって最も関心の高い事項の一つだと思いますので、参考になりましたら嬉しく思います。また、日本知的障害者福祉協会における重点活動やようやく始まった新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種についての対応などの報告もありました。



その後、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使って、施設種別ごとに分かれ、ここ1年程なかなか顔を合わせることができなかった部会員同志で情報交換に花を咲かせたところです。それぞれの部会で話し合われた内容は、以下、各部会長さんの報告のとおりです。

来年度は、ぜひ、リアルで顔を合わせ、研修会が開催できることを願いたいと思います。

部会報告

《 児童発達支援部会 》

児童発達支援部会長
(三方原スクエア児童部) 出水巖生

児童発達支援部会は入所7名、通園12名がご参加下さいました。冒頭では入所、通園合同での全体会を持ち、皆様との久々の顔合わせに際して部会長の出水より挨拶と児童分野での状況報告を行い、今年度就任された施設長の方々にもご挨拶をして頂きました。その後は通園と入所に分かれた分科会を持ちましたが、入所では初めに県立磐田学園が改築しこの春スタートする状況を受けて、Zoomの画面共有にて施設画像をお見せしながら概要紹介を行いました。その後は各施設からの状況報告を伺いましたが、様々なコロナ対応に加え、愛着等の影響を受けている児童への対応に苦慮している報告が多く、入所施設の課題の大きさを痛感しました。通園ではコロナ対応に伴う行事の持ち方、児童や保護者への対応等について苦労しながらも工夫している状況や、様々な幼児期体験や保護者支援の大切さなど、多くの意見交換が行われ、是非今後も継続してZoomでの情報共有の機会を持ちたいとのご意見が多く出されました。

《 障害者支援施設部会 》

障害者支援施設部会長
(駿豆学園) 天良昭彦

昨年1月に集合型で開催された施設長研修会以来1年以上集うことが無かったため、リモートでの画面越しではありますが、久しぶりに施設長の皆さんとお会いできたこと大変うれしく、また懐かしささえ感じました。

出席者は28名、まず全体会で連絡事項等を伝えてから6名～8名の4グループに分かれて意見・情報交換を行いました。やはり話題の中心はコロナウイルス感染症に関することが大半でした。どの施設も利用者の活動や行事等を工夫し実施しているとのことですが、面会や短期入所の受け入れ等、外部との接点については施設や法人の規模、方針等により対策に違いが見られました。また、多くの施設が利用者や職員が発熱でPCR検査を実施した経験があり危機感は否めません。ワクチンの接種が始まるとはいえ収束は見通せず、入所施設の悩ましい日々はまだ続きますが、コロナ禍での苦労や頑張りが共有でき価値のある時間となりました。

《 日中活動支援部会 》

日中活動支援部会長
(ほっと) 家込久志

コロナ禍における活動自粛の中で、それぞれの施設が抱える問題や課題、また施設運営における工夫や取り組みについて発表し、意見交換を行いました。

また、令和3年度に改定される報酬について現時点での情報提供がなされました。多くの施設が懸念する食事提供加算については3年間の時限的延長となること、送迎加算の単価は変わらない予定であるということです。また、副部会長のミルキーウェイ原様より全国の日中活動支援部会の取り組みや、今後の国への働きかけについて報告がなされました。参加者からは様々な意見が出され、今回の報酬改定によって基本報酬単価が下がる事業については、来年度からの運営に影響があると心配する声も聴かれました。さらに令和2年春頃の利用者が休所した場合の算定方法への対応について、市町によって違いがあったことが皆さんの意見から確認されました。

《 生産活動・就労支援部会 》

生産活動・就労支援部会長
(掛川工房つつじ) 滝口裕二

令和2年初頭からパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスの感染拡大では、就労支援の現場にも大きく影響を与え、未だに対応対策に翻弄されたまま一年が過ぎようとしています。恒例の部会研究集会も中止となりましたが、情報共有や連携を図る意味から「新型コロナによる影響について」などのアンケート調査を行いました。施設長研修会の分科会でもこの事について取り上げ、集計結果から伺えたことは、作業内容によって多少の差はあるものの、多くの事業所が販売会の中止や受注の減少で苦しみ、作業を確保し工賃を支給する為には「どうしたら良いか」や、これまでの作業工程や材料費の見直し、また新たな作業開拓で獲得交渉を行ったりと、それぞれが独自で創意工夫し、必死にこの危機

を乗り切ろうという頑張りや、回復に向けての前向きな取組みが伺えました。令和3年度は報酬改定の新たな仕切り直しの年となりますが、社会に直結する就労支援事業は色々な意味で一日も早く「安定して作業に取り組める」日常・環境を取り戻す為のリハビリの一年となりそうです。

《 地域支援部会報告 》

地域支援部会長
(クララ寮) 高木徳雄

新型コロナウイルス対策に向き合いながらのこの一年、会議では各事業所から近況報告及び情報提供等をしていただきました。どの事業所におきましても感染防止対策を施しながら、自粛や制限と向き合いつつも、利用者さんの意向をくみ取った支援に尽力された様子が伺えました。

また、地域支援部会としては当初計画していた「地域支援部会研究集会」「地域移行促進等事業(障害者グループホーム世話人等確保支援事業)」「ふれあい交歓会」の活動がすべて実施できませんでした。しかし、ふれあい交歓会につきましては代替企画として、昨年参加された方を中心にコロナ禍での生活の生の声を寄稿していただき、文集として作成したことを報告させていただきました。

次年度のふれあい交歓会をどのように計画するかも含めて、その他の事業につきましても、新しい視点での活動内容を模索して、リモートの活用も視野に入れた形で検討を進めることとしました。

《 相談支援部会報告 》

相談支援部会長
(障害者就業・生活支援センターさつき) 中村文久

相談支援部会には7名の相談支援事業所の方々が参加してくれました。まず東・中・西各地域それぞれの相談支援の状況を報告していただきました。

計画相談は依然として担当件数が多く忙しい毎日を送っている様子が報告されました。計画相談事業所もなかなか増えず、行政もどうしたら増やすことができるのか打開策を考えあぐねているようです。根本的な解決はすぐには無理だと思いますが、相談支援専門員1人当たりの計画作成件数を軽減できるようにしたいと思います。

また、ちょうど来年度からの報酬改定の案が出ていたこともあり、これについての意見交換もできました。計画相談にかかわる部分は今回の改定では大きな変更があったと思います。現行の特定事業所加算部分を基本報酬に組み込んだ新たな報酬区分が設定されています。この改定をうまく生かして事業所の収入安定に繋げていく必要があると思います。

第7回全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール で文部科学大臣賞を受賞

事務局 青野剛明



今年度で7回目となる日本知的障害者福祉協会主催の「全国小・中学生障がい福祉ふれあい作文コンクール」は、コロナ禍で学校の協力が充分得られない中でしたが例年どおり実施されました。全国では、1,551作品（小学生349作品、中学生1,202作品）の応募がありました。

本県からは、個人応募で静岡大学教育学部附属浜松中学校2年生の森尾 希さんから応募があり、中学生の部で最高賞である**文部科学大臣賞**の荣誉に輝きました。

3月15日に池谷会長と事務局長が学校を訪問し、鈴木校長、宮本教頭等の立ち会いの下、池谷会長から賞状と副賞（図書券3万円と授産製品詰合せ）を贈呈しました。

作品は、題名「**輝くための色**」で、障がいのある人たちの自立を支援する仕事をしている父親の会社のお手伝いを通して、障がいは特別ではなく、一人一人が輝くための色だと考えるようになったと綴っています。受賞作品は日本知的障害者福祉協会のホームページに掲載されていますので、ぜひご一読いただきたいと思います。



《 編集後記 》

父が船乗りだったので、時々無性に海に出たくなります。
去年の今頃は、ゆっくりと船で出かける計画を立てていました（もちろん×…）。
この禍が去ったら、とりあえずは、西伊豆から渡船に乗って沖磯へ…。
海から富士山を拝みたいと思っています。
仕事も遊びも元のおりではなく、今まで以上のものにしていきたいですね！
しずおか愛護 N0.41 をお届けします。
皆さん心健やかに…。

(広報担当 戸津策太郎)